

特定非営利活動法人

日本小児循環器学会 理事会 (2013.8-2015.7)

2015 年度第 3 回理事会 議事録

日時：2015 年 4 月 26 日 (日) 9:00~12:00

場所：大阪 YMCA 国際交流センター 902 号室

【理事会構成員】理事総数：20 名、出席理事：16 名

理事長：安河内聡

副理事長：角秀秋

理事：市田路子(欠席)、小川俊一、小山耕太郎、賀藤均、鎌田政博、坂本喜三郎(欠席)、
佐地勉、佐野俊二(欠席)、白石公、住友直方、土井庄三郎、富田英、中西敏雄、
丹羽公一郎、檜垣高史、三谷義英、山岸敬幸、山岸正明(欠席)

監事：八木原俊克(欠席)、新垣義夫

幹事：鮎澤衛、深澤隆治

【議事の経過の概要および議決の結果】

1. 開会

定刻に安河内理事長が議長となり、定款第 27 条 2 項の定足数を満たしている旨の報告がなされ、本理事会の開会が宣言された。続いて議長から議事録署名人として佐地勉理事、白石公理事が指名され、全会一致で承認された。

2. 報告・審議事項

<持ち回り理事会決定事項報告>

安河内理事長より、持ち回り理事会での決定事項について下記の通り報告がされた。

・先天性心疾患の全国サーベイランス調査「Q & A」ならびに「各施設へ掲示するお知らせ」

承認 (承認日：2015 年 3 月 3 日)

<委員会からの報告、審議事項>

各委員長より下記の通り報告がされた。

1) 顕彰委員会：三谷理事

・功労賞の選出について、本年度に決定方法を決めてきたい。委員会で決めて、理事会で承認する形にしたい。選出は無記名の投票を行う。宮田賞については募集がまだ少ない。

2) 利益相反委員会：三谷理事

・学術集会での COI 掲示について来年からは抄録応募の段階から行う形式にする。

3) 雑誌編集委員会：白石理事

- ・投稿が少なかったこともあり、3月発刊になった。ニュースレターは2月、6月、10月に発刊していく。試験模擬問題の掲載についても検討していきたい。
- ・雑誌については発刊から6か月が会員限定としていたが、発刊時からフリーアクセスとしたい。
 - 全会一致で承認された。
- ・YouTubeのチャンネルを開設したい。内容は編集委員会で確認して掲載する。
 - 全会一致で承認された。
- ・学術集会ポケット版については、印刷費は学術集会負担、校正など制作費は学会本体負担としたい。広告は学術集会側が集め、学術集会側の収入とする。
 - 全会一致で承認された。
- ・国際文献社から冊子体（オンデマンド印刷）販売に関する契約について契約書の提示がされた。希望者は冊子体を国際文献社から購入できるようにする。
 - 全会一致で承認された。
- ・メディカルトリビューン社からニュースレターの付録に関して提案がされた。
 - 全会一致で承認された。

4) 専門医制度委員会：富田理事

- ・新制度は開始時期が不明な部分もあるが、準備しておく必要がある。外科については認定医制度を準備するか検討したい。また、循環器専門医との連携として、お互いに修練可能にしたい。

(1) 専門医カリキュラム・プログラム小委員会：檜垣理事

- ・専門研修実績記録を作成している。施設基準を2017年頭に公示できるように準備したい。プログラム作成のタイムスケジュールを提示し、5月末までに問題点を確認する。制度改訂の進捗状況は学会HPなどで会員が閲覧できるようにする。

5) 移植委員会：福嶋委員長代理 白石理事

- ・東京都から派遣されたコーディネーターからドナー家族への話し方に問題がある例が報告されている。脳死判定医のリクルートを行っていきたい。

6) 倫理委員会：土井理事

- ・CHD肺高血圧の登録研究の倫理審査については、企業のサポートがあると審査不可である。重症大動脈弁狭窄の胎児治療の倫理審査については、成育での倫理委員会との意見相違があり、再申請を求めたい。

7) 保健診療委員会：賀藤理事

- ・超音波医学会から小児心エコー加算について申請している。
- ・国際治験推進において症例が集まりにくい場合、必要な場合は秘密保持した上で、周知などを学会として支援することについて提案したい。
 - 全会一致で承認された。

8) 学術委員会：小川理事

- ・日循ガイドラインの合同作成として 50 万円拠出したい。
 - 全会一致で承認された。
- (1) 心血管疾患の遺伝子疫学委員会：山岸(敬)理事
 - ・NIPT の評議員アンケート結果をまとめた。報告義務として、HP に掲載したい。
 - 全会一致で承認された。
 - 学会としてのコメントを出す、という意見も出されたが、時期尚早であるという意見が多く、今回はアンケート結果の掲載のみ実施することとなった。

(2) 教育委員会：鎌田理事

- ・教育セミナーの動画について、m3 のサービスを利用したい。動画撮影と配信がセットになっている。教育セミナーと医療安全セミナー、両方撮影、配信できる。
 - 全会一致で承認された。

9) 地方会委員会：小山理事

- ・地方会参加証規格について分科会、セミナーと統一した様式を作成していきたい。
 - 全会一致で承認された。

10) 広報交流委員会：中西理事

- ・You Tube を利用して学会チャンネルを開設し、広報に用いたい。市民公開講座などの良い講演を配信することで、先天性心疾患の啓蒙・啓発を行っていく。すでに先行している他学会によれば、一般の視聴がすごく多いとのことである。これだけを作るとなれば 30 分の講演 5 つ分として、60 万円の費用がかかる。
 - 全会一致で承認された。
- ・AEPC との YIA は日本からは、三重の篠原先生、京都府立の池田先生と日本大学の趙先生を選出した。AEPC から誰を選ぶかは、安河内理事長が先方と協議する。
- ・AEPC と毎年 3 人の人材交流をしており、大変好評を得ている。この規約をもとに AHA ともまず 1 人から交流を始めたい。
 - 以下の意見が挙げられた。

- ・昨年の AHA とのミーティングで CVDY 担当の Dr.マーレから AHA も AEPC と同じ交流を行いたいと申し出があった。その際に交流に関する規約を見せてくれと言われたが、規約は用意されていなかったため、現在作成中である。完成次第 AHA と交渉する。交流に参加された先生は、帰国後報告書を HP か NEWS Letter に書いてもらう。
- ・YIA は一人 1000 ドルと 3 泊分のホテル代がでる。YIA の発表は AEPC では満席の中で行うが、日本では観客は数人しかいないので問題である。
- ・YIA と会長賞の発表には、学術委員は全員出席を求めたらどうか。
- ・小児科学会も PAS と交流しているが、日本から行く人は良いが、向こうから来る人には「英語のセッションがない」「観客が少ない」など不評で中止の方向になっている。
- ・理事会としては会員が積極的に参加するよう、働きかけを検討していく。

<その他の報告、審議事項>

1) 新委員会の立ち上げ、委員会規定の作成について：安河内理事長

安河内理事長から下記の通り提案があった。

・小児循環器学会から日本循環器学会、日本心臓病学会、日本成人先天性心疾患学会の各理事長あてに要望書を提出した。成人移行に関して横断的な検討委員会を設けることに各学会の理事長は賛成された。しかしまだ具体的にどうするかは決まっていない。小児科学会の成人移行に関する会議に先日安河内理事長と賀藤理事で出席してきた。成人移行に関しては小児循環器学会が進んでいるので、本学会の取り組みをどんどん進めて行くようにとの話があった。以上から、成人移行の委員会を立ち上げたい。

➤ 以下の意見が挙げられた。

- ・各学会でそれぞれに行うのは難しいので、やはり横断的な検討は必要。
- ・他学会と議論したときに、小循ではそのような担当委員会がないのかと指摘を受けたことがあり、委員会を設けたい。
- ・市田蓆子先生にも入っていただきたい。看護師にも入ってもらうのがよい。
- ・日沼千尋先生や落合亮太先生もよい。ほかに意見がある人はゴールデンウィーク明けまでに連絡をいただきたい。

➤ 委員会の設置について全会一致で承認された。

・将来計画委員会があるが、あまり機能していない。今後、事務局の移転、さらには NPO 法人から一般社団法人への将来的な移行など総務的な仕事の増加が予想されるので将来計画委員会を改め、総務委員会を立ち上げたい。

➤ 委員会の設置について全会一致で承認された。

・各委員会委員長には、委員会の活動報告とまとめをお願いしたい。資料に添付したようなフォーマット（案）にまとめてもらいたい。

また、委員会の規約については資料 16 p62 のとおりであるが、まだ委員会規約がない委員会もある。各委員長には業務の内容をはっきりさせて、規約がないところには規約を作っていたきたい。

▶ 以下の意見が挙げられた。

・申し送りにも使用できるようにしたい。委員会の業務を明らかにして、継続性を持たせるようにする。

・小児科学会は現在やっている。2年に1回ポスターを作って報告している。

・6月中に作成する。また、規約以外にも申し送りの簡単なマニュアルなども作ってもらえるとありがたい。

・規約とマニュアルは作った後にどうするのか。承認はいるのか。

・規約は承認が必要。マニュアルの承認は不要でないか。作成したものをまとめて、理事に目を通してもらうようにする。

▶ 6月末まで規約、マニュアルを各委員会委員長が作成することが全会一致で了承された。

2) AEPC-AHA からの招聘者の処遇について(宿泊代その他)：安河内理事長

安河内理事長より下記の通り提案があった。

・従来は学術のほうから3人AHA、3人AEPCから学術集會に招聘し、一人3,000ドルを学会から支給し、3泊分の宿泊費を学会会長が負担していた。また、台湾からは1,000ドルと宿泊費を3泊分、同様に支給していた。YIAの人については、費用(1,000ドル)は先方が出し、宿泊費を3泊分学会会長負担となっていた。これまでは特に規定も何もなくやってきた。このままでよいのか討議いただきたい。

▶ 以下の意見が挙げられた。

・学会が呼んだのであれば、宿泊代もやはり学会が負担すべき。

・宿泊費は、たとえば2万円までは学会が負担するというにすることにするか。

・これまで学会側か学術集會側のどちらが支払うかファジーであったが、はっきり決めてほしいというのが提案の発端だろう。COIの問題で今年の4月から製薬会社が学会に対する支出に関してかなりシビアになっている。このため学会側からの援助を増やしてもらえればということである。

・AEPCの3人、AHAの3人、台湾の1人、YIAの3人の計10名に関しては、学会が費用と宿泊費の上限を決めて、宿泊費も出すということになるか。

- ▶ 学会が呼んだ人に関しては、宿泊費の上限（2万円）を決めて3泊分支出することが承認された。
- ▶ 本案件は今年から適応されることが全会一致で承認された。

3) 小児慢性申請について：中西理事

中西理事より下記の通り報告があった。

- ・98疾患に対する概説を作った。さらに成人移行への注意点の記載を加えた。難病指定に関しては7月ごろから認定が始まる。これに伴い個人調査票に「術後の合併症」と発達遅延などの「神経合併症」を付け加えるもようをお願いした。

4) オノアクトのアンケートについて：白石理事

白石理事より下記の通り提案があった。

・Joerg Stein 先生の推薦を受けて AEPC から国立循環器病研究センターへ留学中の Miriam Michel 先生からオノアクトのアンケート協力の申し出があった。アンケート自体は簡単なものである。

- ▶ 以下の意見が挙げられた。
 - ・オノアクトはオフラベルの薬である。これをやるにはやはり倫理委員会を通す必要がある。また、結果は小児循環器学会雑誌に投稿する義務が生じる。協力することは Welcome であるが、まず学術委員会に諮ってもらうのがよいのではないか。(安河内理事長)
- ▶ 本人に確認の上、検討することとなった。

5) Meet The Expert について：山岸(敬)理事

山岸(敬)理事より下記の通り提案があった。

・以前、学術集會に Meet The Expert というコーナーがあり、非常に有意義であったが、最近では催されない。参加者が少なかったのが問題だったのだと思う。しかしながら、海外から出席してくれた人は人数が少なくとも密に話ができたと大変喜んでいたので、できれば再開したい。

- ▶ 検討していくこととなった。

6) 小児循環器学会 学会事務委託会社の変更について：安河内理事長

安河内理事長より下記の通り報告があった。

・本年12月で Medical Tribune が本学会の事務委託から撤退する。今後の移転の工程表を MT 社から出してもらった。本会の事務は MT 社の整理事業部門に現在移行している。第5期試

験関連では、今回専門医証の発送が終了したので、これから試験問題消失問題も含めて5月末までに費用清算を行う。

・今回の学術集会までには新しい事務局を決定し、新しい会社の名前に定款を書き換えて、総会で承認を得ないといけない。となれば、逆算して6月初めには新しい委託先を決定しておかないといけない。その後契約を結び、定款の変更へと進んでいく。定款の変更に関しては総会出席者の3/4の以上の賛成が得られないと承認されない。3/4というハードルはかなり高いので、定款を変更することが可能であれば、出席者の2/3以上の賛成をもって変更できるようにならないか、皆さんに検討していただきたい。

- ▶ 以下の意見が挙げられた。
 - ・定款変更に関するNPO法人の規約はどうなっているのか、確認の必要がある。
 - ・新しい事務局の選定に当たっては、Working Groupを立ち上げて、ある程度選定したうえで理事会承認としたい。
- ▶ 検討を進めていくこととなった。

7) 学会会費未納者について

安河内理事長より、下記の提案があった。

・学会会費未納が500万近くあり問題となっている。督促すればまた経費がかかるため、良い改善策を検討したい。

- ▶ 以下の意見が挙げられた。
 - ・未納者のリストを出して、それぞれの上司に送付する。
 - ・演題を登録するときに、未納者が含まれれば演題を受け付けないようにする。また、総会のときに未納者リストを作成しておいて、未納者は会場にも入れないようにすればよいのではないか。
- ▶ 検討を進めていくこととなった。

8) 医療安全講習について

・専門医更新に当たり5年間で3回以上の医療安全講習出席が必要である。オンデマンドで医療安全講習会を流しているが、参加証がないのが問題である。

- ▶ 以下の意見が挙げられた。
 - ・日循は試験がある。試験の実施が必要なのではないか。
 - ・まだ双方向性のシステムが整っていないので、試験を実施できる段階ではない。
- ▶ 検討を進めていくこととなった。

3. 閉会

以上をもって本日の議事を終了し、議長から議事への協力に謝辞があり、閉会した。

上記の議事の経過および結果を明らかにするため、この議事録を作成し議長並びに議事録署名人がこれに押印する。

2015年4月26日

議 長 安河内 聰

議事録署名人 佐地 勉

議事録署名人 白石 公

(以下余白)